

平成二十二年 度

文京学院大学
女子中学校

入学試験問題(第一回)〔国語〕

(所要時間五十分)

一

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

※この文章は、「歩行祭」という学校行事で、深夜から朝にかけて町を走る融^{とろ}という男子生徒の話です。忍^{しのぶ}は、融の親友である男子です。

最初は快調だった。

むしろ、びくびくしながら団体歩行でちんたら歩いていた時よりも、テンポに乗って走っている方が、解放感があつて清々^{すがすが}しい気分になったほどだ。

テーピングもしっかりしていて、痛みはなかった。

バタバタいつていた周囲の足音が少しずつ減^①っていき、生徒たちの列がばらけていく頃には、身体が暖まり、心なしか呼吸も楽になったような気がして、最後には忍^{しのぶ}の足音と二人きりになった。

夜明けが朝へと変わっていく。

ゆつたりと移り変わる風景の中を、自分の呼吸の音と、忍の足音だけを聞いて走っていると、不思議な充足感が身体に満ちてくる。

頬^ほに秋の朝の光が当たって、そこだけ冷たい熱を感じる。

隣を走る忍の、光に照らされた輪郭^{りんかく}を感じる。

※¹ランナーズ・ハイになったのか、疲労を感じなかった。いつまでもこうして走っていたいほどだ。

幸せだ、と感じた。

「幸せ」という言葉を自分の中でこれまで意識したことなどなかったけれど、今頭の中に浮かんではまさしくその単語だ。何も心配しなくていい。無心でゴールを目指せばいい。順位も、結果も気にしなくていい。ゴールに駆け込んで、帰って眠ればいい。

黙々と鉄橋の上を走る。

川の上に出ると、空気が動いているのが分かる。川に沿って流れている風が、水の流れと共に朝の空気をざわめかすのだ。

時折思い出したようにトラックが車道を駆け抜けていき、橋をかすかに揺らす。

昨日からぐちゃぐちゃと胸に渦巻いていた余計な考えや、雑念はすっかりどこかに行ってしまった。

③ 不意に、昨日忍が言った台詞を思い出す。

融はさ、偉いんだよな。

隣の忍は、いつも通りのしらっとした顔で走り続けている。

④ だけどさ、雑音だっておまえを作ってるんだよ。雑音はうるさいけど、やつは聞いておかなきゃなんない時だつてあるんだよ。

あの台詞はいつのことだったつけ？ 昼だつけ、夜だつけ。いや、夜だ。暗かった。昨夜のことだ。なのに、もう大昔のことのような気がする。

おまえにはノイズにしか聞こえないだろうけど、このノイズが聞こえるのって、今だけだから、あとからテープを巻き戻して聞こうと思った時にはもう聞こえない。おまえ、いつか絶対、あの時間いておけばよかったって後悔する日が来ると思う。

正直、あの時は忍が何を言っているのかピンと来なかった。珍しく口ごもり、熱っぽく呟いていた友人の姿にきよとん

としてただけで。

⑥、今はなんだか彼の言っていたことが分かるような気がした。

今は今なんだと。今を未来のためだけに使うべきじゃないと。

俺って、結構馬鹿かも。もう高校生活も残り少なくなつて、ほんとに残り少なくなつてから、⑦こんなことに気が付くなんてね。

融は思わず走りながら苦笑していた。笑うと、歯に外気が当たって冷たい。

こうして、高校生活最後の行事を、気の合う尊敬できる友人と一緒にフィニッシュできそうだということに、彼は大いに満足していた。

⑧ そこに油断があったのかもしれない。

チェックポイントもさつさと通過し、二人はリズムミカルに走り続けた。クラスの中でも、二人は上位だった。何も言わずに再び道路に出る。

国道は、徐々に車が増え始めていた。

週末の早朝なので、どの車も飛ばしている。車道と並走していると、妙な⑨心が湧く。むしろ、スピードでは敵いつこないのだが、抜かされるとなんとなくムツとするのである。

国道の先で、また田舎道に戻るのには地図を見て覚えていたので、早く通過しようと二人とも心持ち早足になった。

ぼちぼちスタミナ切れかな。

ランナーズ・ハイも終わりがかかっているらしい。部活動を引退して時間が経っているし、持久力の限界が近いのは確かだった。

前方に、道が分かれているところが見えた。前にぼつぽつと一人で走っている男子生徒が見える。大きく曲がる国道か

ら逸れて、再び田んぼの中に白い道が続いている。

なんとなくホツとして、スピードが鈍った。

辺りは見慣れた朝の田舎町になっている。全身はもう汗びっしょりで、頭から爪先までくまなく放熱しているのが分かる。こんな時はいつも、生物というのが一個の燃焼機関なんだということを実感する。

白い道は舗装されておらず、このところ雨が降っていなかったせいかな乾いていた。

足の裏に小石が当たり、見た目よりも走りにくい道だと直感する。

しかも、微妙に傾斜があつて、たちまち左足に負担が掛かるのを感じた。

ヤバイな。

心のどこかでひやりとする。

この、中途半端な傾斜というのは、疲れるし転び易い。せめて傾斜が逆だったらよかったのだが、ざっと見た限りでは、左側に傾いた道が続いている。一步踏み出すごとに、左足に嫌な違和感が積み重なっていくようだ。

なるべく気にしないようにしていたが、途中から違和感は鈍い痛みが変わった。

まずい。今朝起きた時に感じた痛みがぶり返している。

認めたくはなかったが、どうやらそう判断するしかなさそうだった。

(恩田陸『夜のピクニック』より)

語注

※1 ランナーズ・ハイ マラソンなどで長時間走り続けると気分が高まっていく現象。

問一 ——— 線①「忍の足音と二人きりになった」とは、どのような様子を表していますか。次のア～エの中から最も

適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分は静かに走っているのに、忍の足音だけが耳に入ってくる様子。

イ 他の人たちがみんな先に行ってしまう、二人だけが取り残されている様子。

ウ 余計なことは頭から消えて、自分と友だちの足音だけが聞こえている様子。

エ 前を向いて走っているのに、目ではなく、耳で友達の存在を確認している様子。

問二 ——— 線②「結果」の反対語を漢字二字の熟語で答えなさい。

問三 ——— 線③「不意に」の意味として正しいものはどれですか。次のア～エの中から最も適当なものを一つ選び、

記号で答えなさい。

ア 時間をかけて、やっと。 イ 知らないうちに、そっと。

ウ 今度こそ、間違いなく。 エ 思いがけず、急に。

問四 ——— 線④「雑音だっておまえを作ってるんだよ」とありますが、ここでの「雑音」とはどのようなものです

か。その説明として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 以前に一度聞いたことがある言葉。

イ 大きな声で注意を呼びかける言葉。

ウ その時は興味や関心が持てない言葉。

エ 速すぎて聞き取ることができない言葉。

問五

——線⑤「後悔」という語を含む「後悔先に立たず」ということわざがあります。これと反対の意味をもつことわざはどれですか。次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 二兎を追うものは一兎をも得ず

イ 石の上にも三年

ウ 転ばぬ先の杖

工後の祭り

問六

⑥ に当てはまる言葉として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア
ところで

イ
だけど

ウ
また

工
あるいは

問七

線⑦「こんなこと」とは、どのようなことですか。次の□に当てはまるように本文中から十八字で抜き出さない。

255000

ሕጋዊነት፡

問八

線⑧「油断があつたのかもしれない」とありますが、この油断により融にどのようなことが起こりましたか。文章中の言葉を用いて、十五字以内で答えなさい。

問九

⑨ に当てはまる最も適当な語を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア
警戒

イ
恐怖

ウ
闘争とうそう

工
好奇

問十

線アゝ工の中で、他と働きがちがう言葉が一つあります。それを選び、記号で答えなさい。

ア
どの

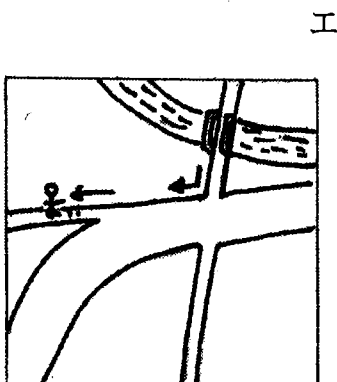
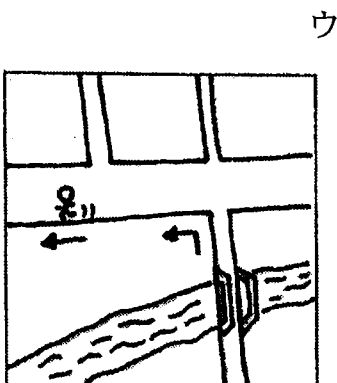
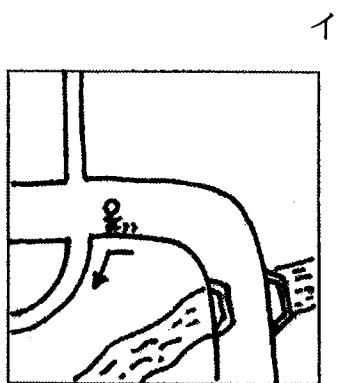
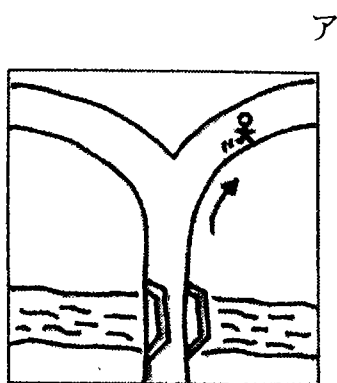
早く

ウ
前に

工
もう

問十一 登場人物の走っているコースとして、文章の内容と合っているものはどれですか。次のア～エの中から一つ選び、

記号で答えなさい。



問十二 次の各□□に漢字を入れ、四字熟語を完成させなさい。

ア 五里□□（ものごとの判断がつかず、迷うこと。）

イ 臨機□□（その場に合わせて適切な手段をとること。）

ウ 危機□□（たいへん危険な状態にあること。）

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

わたしたちはなぜ宇宙に行くのでしょうか？ 月の石を少しばかり持ち帰るために、なぜ多くの努力を重ね、莫大^{ばくだい}なお金を使うのでしょうか？ もっとまじなことが、この地球でもできるのではないのでしょうか？

一四九二年以前のヨーロッパにも、同じように考える人がいました。その人たちは、莫大^{ばくだい}なお金をかけて雲をつかむような探検にクリストファー・コロンブスを送り出すのはむだだと思っていたのです。でも、コロンブスはアメリカに到達し、そのことによって、時代は大きく変わったのです。わたしたちが今ビッグ・マックを食べられるのも、そのおかげかもしれないし、もちろん、ほかにもいろいろな変化が起こったのです。

宇宙に出ていくなら、当時のコロンブスよりもっと大きな努力が必要でしょう。それは人類の未来をまったく変えることになるでしょう。わたしたちに、はたして未来があるのかどうかさえ、決めることになるかもしれません。

宇宙に出ていっても、この地球でわたしたちが抱える問題を直接解決することにはならないでしょう。でも、これまでとは違う見方でものを見る助けにはなるでしょう。人口がますます増えていく地球では、自分たちの内側ばかりを見るのではなく、広い宇宙に目を向けることが必要な時代がもう来ているのです。

宇宙への人類の移動は、すぐにはできません。それには何百年も、何千年もかかるかもしれません。わたしたちは、三〇年以内に月に基地をモウ^⑦け、五〇年後には火星に到達し、二〇〇年後には外惑星^{がいわくせい}（軌道^{きどう}が火星より外を回っている惑星）が持つ衛星を探索できるようになるかもしれません。ここで「到達」と言っているのは、③が到達するという意味です。わたしたちは、すでに火星には探査機を走らせ、土星の衛星タイタンにも探査ロボットを着陸させています。しかし人類の未来を考えるのなら、ロボットを送るのではなく、人間がそこへ行ってみたいといけません。

でも、どこへ行けばいいのでしょうか？ 宇宙飛行士がすでに何か月も国際宇宙ステーションで暮らしていることから、

地球を離れても人類が生きていけることはわかっています。一方で、重力がゼロに近い宇宙ステーションで暮らすことの難しさもいろいろとわかってきています。一杯のお茶を飲むのがたいへんなだけではないのです。^④無重力のところでは長期間暮らすのは、人間の体にとってあまりいいことではありません。だから、宇宙に基地を作るなら、惑星か衛星に作る必要があるのです。

では、どの惑星あるいは衛星を選ばいいのでしょうか？ いちばんわかりやすい候補は、月です。距離も近いし、到達するのも難しくありません。月面には何度も人間が着陸しているし、人間が月面車を運転して走らせたこともあります。その一方、月は小さくて、地球と違って大気も磁場もないので、^{※1}太陽風の粒子^{りゅうし}の方向をそらすことができず、もろに浴びてしまいます。月には水はありませんが、北極や南極のクレーターには氷があるかもしれません。月に移住した人は、この氷からサンソ^①を作りだし、原子力やソーラーパネルからエネルギーを得ることになるでしょう。月は、太陽系の他の場所へ旅するための基地になりえます。

火星はどうでしょう？ 月の次に有力な候補は火星です。火星は地球よりも太陽から遠いので、太陽光から得られる暖かさは減り、温度はずっと低くなります。かつては火星も磁場を持っていましたが、四〇億年前に失って、多くの大気を放出してしまいました。そのせいで、火星地表の大気圧（大気圏^{たいきけん}にいる時にかかる空気^{※3}の重さ）は、地球の大気圧の一パーセントしかありません。

過去には、火星の大気圧は高かったに違いありません。^⑤というのも、干上がってしまった河川や湖の跡らしいものが見えるからです。今の火星では、水はジョウハツ^⑦してしまうので、液体のかたちでは存在できません。

でも火星の北極と南極には、多くの氷があります。もし火星に行って住むのならこの氷を利用できるでしょう。また、火山が地表まで運んでくれる鉱物やキンゾク^①も利用できます。

というわけで、^⑥月と火星は条件がなかなかよさそうです。

太陽系の中には、ほかに人間が住めそうな場所があるでしょうか？ 水星と金星は熱すぎるし、木星と土星は巨大なガス惑星で固い地面がありません。

火星が持つ衛星を試してみることができますが、二つともきわめて小さいものです。木星や土星が持つ衛星を試したほうが、ましなものが見つかるかもしれません。土星の衛星の一つであるタイタンは、月よりも大きく質量があり、濃い大気を持っています。N₂、A₂とE₂（欧州宇宙機関）が共同で行ったカッシーニ・ホイヘンス計画では、カッシーニ探査機が土星軌道を回り、そこから切り離されてタイタンに着陸したホイヘンス探査機が地表のエイゾウを送信してくれました。しかし、太陽から遠く離れているのでタイタンはとても寒いうえ、わたしなら液体メタンの湖のそばに住む気にはなれません。

太陽系の外はどうでしょう？ 宇宙を見渡すと、惑星を持つ恒星はかなりの数あることが知られています。最近までは、木星や土星くらいある巨大惑星しか見つけることができませんでした。でも今では、地球くらいの大きさの惑星も見つけることができるようになりました。そのうちのいくつかは、「ゴルディロックス・ゾーン」で見つかるでしょう。これは、主星（恒星）からの距離が適当なので、地表に水が液体のかたちで存在できる領域で、ハビタブル・ゾーンとも呼ばれています。

地球から一〇光年以内の距離には、おそらく一〇〇〇個くらいの恒星があると思いますが、そのうちのパーセントが「ゴルディロックス・ゾーン」に地球サイズの惑星を一個は持っているとするれば、新世界の候補地が一〇か所あることになります。

今のところ、宇宙旅行といってもそう遠くまで行けるわけではありません。じつは、とてつもない距離を越えて進む方法さえまだわかっていないのです。しかし今後二〇〇年から五〇〇年の間には、その方法突き止めるという目標を持つべきです。人類は、約二百万年前から別個の生物種として存在してきました。文明は約一万年前から始まり、それ以来、

⑧ 発展の度合いは着実に増えています。そして今、これまでだれも行ったことのない場所へ大胆に出ていく段階に来ているのです。その結果、何を見つけ、だれに会うかは、まだだれにもわかりません。

（ルーシー&ステイヴン・ホーキング『宇宙に秘められた謎』より）

語注

- ※1 磁場 磁界。磁力がはたらく空間。
- ※2 太陽風 太陽から放出される非常に高温で高速のプラズマ流。
- ※3 大気圏 地球をとりまく大気が存在する空間。
- ※4 カッシーニ・ホイヘンス計画 土星と、その最大の衛星であるタイタンの探査を目的とした計画。
- ※5 メタン 天然ガスの主成分。
- ※6 光年 一光年は光が真空中を一年間に進む距離。約九兆四六〇〇億キロメートル。

問一 ——— 線①「雲をつかむような」の本文中の意味として最も適当なものはどれですか。次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア どんなものにもすがろうとすること。
- イ うまくいくかどうか分からないこと。
- ウ はるか遠くまで探し求めに行くこと。
- エ ものごとがうまくいきそうなこと。

問二 ——— 線②「この地球でわたしたちが抱える問題」とは、具体的にはどのような問題ですか。次の□に当てはまるように本文中から十二字で抜き出なさい。

こと。

問三 ③ に当てはまる最も適当な語を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 地球 イ 探査機 ウ ロボット エ 人間

問四 ——— 線④「無重力」は、「重力」という熟語の上に打ち消しの役割を果たす「無」がついたものです。同じように「無」をつけて三字の熟語が成り立つ語はどれですか。次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 注意 イ 自然 ウ 公開 エ 常識 オ 関係

問五 ——— 線⑤「というの」とありますが、これと最も近い意味の言葉を、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア さて イ だから ウ けれども エ なぜなら オ それとも

問六 ——— 線⑥「月と火星は条件がなかなかよさそうです」とありますが、月と火星にはどのような共通点がありますか。次のア～エの中から最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 濃い大気を持っている。
イ 太陽系の外に存在する。
ウ 現在、磁場を持っていない。
エ 人間が着陸したことがある。

問七 ——— 線⑦「新世界」とは、どのような場所のことですか。最も適当な語句を本文中から十字で抜き出さない。

問八 ——— 線⑧「発展の度合いは着実に増えています」とありますが、「たえまなくどんどん発展すること」の意味を表す次の四字熟語の、ア・イに入る漢字を答えなさい。

日 ア 月 イ

問九 この文章には人間が地球を離れて暮らすことの難しさも書かれています。宇宙で長期間暮らすとなれば、惑星か衛星に基地を作らなければならない理由を、本文中の言葉を用いて、次のに当てはまるように二十五字以内で答えなさい。

から。

問十 本文の内容に合うものを、次のア～カの中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 宇宙についてはまだ解明されていないことが多い。
イ 宇宙への人類の移動は今後五〇〇年以内に実現する。
ウ 惑星や衛星を選ぶ際に温度は重要なポイントとなる。
エ 土星の衛星タイタンは人間が住むのに適した環境である。
オ 太陽から遠く離れている惑星や衛星ほど表面温度が高い。
カ 火星の環境は過去と現在を比較しても変化がほとんどない。

問十一 ——— 線⑨～⑫のカタカナを漢字に直さない。

ア 三〇年以内に月に基地をモウけ、……。
イ この氷からサンソを作りだし、……。
ウ 水はジョウハツしてしまうので、……。
エ 鉱物やキンゾクも利用できます。
オ エイゾウを送信してくれました。